第３分科会　自立活動

指導・助言　秩父特別支援学校　校長　　西　　聡
実践提案　三郷市立早稲田小学校　教諭　比嘉　亮太
活動報告　特別支援学校　県立特別支援学校自立活動部会

１　自立活動を取り巻く状況

コロナ禍による経験不足や教員の業務多忙等の中、児童生徒一人一人の障害の状態や特性等を正しく理解する間もなく指導に当たっている最近の学校状況がある。

解決するために、本で学ぼうとするが、How To 本の通りでは思い通りにいかず、児童生徒を叱責してしまったり、焦りからくる力ずくの指導に至ってしまうケースまである。

そのような背景の中、特別支援学校自立活動部会の「一人一人の障害特性・ニーズを踏まえた自立活動の充実」に向けての取り組みは、「流れ図」作成の報告会や国立特別支援教育総合研究所　吉川　知夫先生を招聘しての研究会等を実施して、障害特性等を正しく理解する知識や技能を習得できる内容を実施している。障害特性等を正しく理解し、一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じた指導計画を作成し、未来を担う埼玉の子供達の育成に今後も益々励んでいただくことを期待する。

また、自立活動の指導においては、個々の児童生徒の実態に即して，指導の道筋そのものを組み立てていくことが求められる指導である。「実態把握」から「具体的な指導内容の設定」 に至るまでの流れについて研究部で整理していただければ幸いである。

２　提案実践について

（１）良かった点、特筆すべき点等

小集団での自立活動であり、個々の児童の学習上、生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする授業実践である。学校生活上の問題を、未学習や誤学習と捉えて一人一人に合った目標設定をして個に応じた指導をしている。未学習については、知識として教えるとともに実体験で獲得できるようにし、誤学習については、学び直しを丁寧に行っている。学んで獲得したスキルは、他の通常の学級の児童との関わりにも活かされ、やがては社会の出たときにも活かされることになる。引き続き、児童一人一人の自立に向けての指導に期待する。

（２）改善点、アドバイス

小集団の自立活動は、手立てが先行する「指導内容ありき」になってしまう傾向がある。そうなると、実態から課題が設定されていないので、児童が思うように活動できないことがある。未然に防ぐためには、個の目標は何なのかを時々確認する必要がある。まして、TT で行っているなら、教員間で確認しておく必要がある。個別の指導計画をツールに、ぶれないように注意していただきたい。

（３）実践者への激励メッセージ

授業を進める中で、なかなか思うように結果が表れないのが自立活動である。まして、時には自立活動は不要ではないかと考えてしまうことがあるかもしれない。しかし、実践している活動は、児童一人一人が将来、様々な場面で、感情をコントロールしたり、話し合ったり、自分や他者の感情を考えたり、適切な行動を考えたりすること等に繋がる取り組みである。必ずよい結果が表れるので自信を持って今後も励んでもらいたい。

最後に、私は長い期間、小学校の情緒通級指導教室（現：発達障害・情緒障害通級指導教室）で、通常の学級での学習上、生活上の課題を克服するために、小集団指導（５人～７人）を取り入れていた。授業では、導入部分で、児童一人一人の個の目標を児童に発表させ、自分の目標を確認するとともに友達の目標を知る場面を作っていた。これは、TT を組んでいる教員間の確認作業でもあった。なぜ、個の目標にこだわるかと言うと、（２）の中で触れている「指導内容ありき」の怖さを体験しているからである。組み間違えて荒れてしまった児童を戻すのはとても時間がかかった。同じ轍を踏んでほしくないので注意喚起した。